躍進　京滋の中小企業

田中印刷

（京都市南区）

「帳票」や説明書に特化

複写伝票やコンピューター入力用紙などの「帳票」の印刷に特化し、事業を伸ばしている。積極的な設備投資で、医薬品の説明書の印刷といった新分野にも参入している。田中正雄社長は「業界で注目される、夢の持てる会社にしたい」と意気込む。

創業時は、幅広い印刷を請け負う「町の印刷屋」（田中社長）だった。家庭用プリンターの普及やペーパーレス化に伴う印刷需要の縮小を受け、2006年に既存の設備を生かせる「帳票」の印刷に特化することを決めた。

帳票は顧客ごとに仕様が細かく異なり、印刷に手間がかかる。部数や納入先ごとの仕分けなど人の手による作業も必要なため敬遠する印刷業者が多いという。田中社長は「他社に勝る事業を考え、帳票に特化した」と振り返る。

帳票は、金融機関なども使っているため、少しのミスも許されず、検査カメラ付きの印刷機を導入した。高品質を維持しながら、低コストを実現するため、裁断機やのり付け機などの最新設備を駆使する。

昨年からは医薬品の効能や使用方法を記載した説明書の印刷にも力を入れ始めた。医薬品の説明書は薄く、箱に入れるために折り畳んで納品しなければならない。製薬会社のチェックが厳しいため、検査カメラ付きの折り畳み機を5台備えて対応に万全を期す。

現在は、偽造防止のホログラムやQRコードがついた金券の印刷も手掛けるなど、新規事業の開拓も続けている。

作業効率を上げて利益率を高めるために帯封や荷造りなどはできるだけ機械化している。急な配送にも対応できるよう段ボールを作る機械も配置する。10～30代の若い従業員も多く、技術の継承に向け、リーダーの育成にも取り組んでいる。

医薬品関連印刷の拡大に向け、専門工場の整備も視野に入れている。田中社長は「まだ手作業の部分が多く、さらに経営革新を進め、仕事に喜びを感じる会社にしたい」と飛躍を目指す。

（三村智哉）

㊤最新鋭の印刷機が並ぶ田中印刷の工場（京都市南区）
㊦印刷を手掛ける帳票や金券など。低価格で高品質な印刷を目指している

メモ

1950年に京都市伏見区で創業した。2006年に田中正雄社長が就任。11年に京都市南区に本社、工場を移転した。14年には医薬品関連印刷の事業計画が京都府の経営革新計画として承認された。14年11月期の売上高は約11億円。従業員は約50人。